

自己評価報告書

平成 23年 4月 25日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520355

研究課題名(和文) 世界知識と語彙意味：より豊かで体系的な語彙意味論の構築をめざして

研究課題名(英文) World Knowledge and Lexical Meaning: Exploration of an Enriched Theory of Lexical Semantics

研究代表者

由本 陽子(YUMOTO YOKO)

大阪大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号：90183988

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：概念構造、特質構造、複合語形成、複雑述語

1. 研究計画の概要

- (1) 従来語用論の問題として片づけられていた言語現象を、世界知識を取り込んだより豊かな語彙意味論を構築することにより、体系的、原理的に説明する。
- (2) 名詞の特質構造が関わる語形成のメカニズムを明らかにする。
- (3) 動詞の LCS や事象構造と特質構造の関係づけなどを明確にしより説明力の高い語彙意味記述を求める
- (4) 形容詞の特質構造について4つの役割を区別する。

2. 研究の進捗状況

- (1) 「動詞+動詞」の複合について、二つの動詞の意味関係を決定する動詞の LCS と特質構造の特徴を明らかにした。ここで提案した分析は、動詞の特質構造の目的役割において表される事象構造が、結果構文のみならず、日本語の複合動詞形成にも重要な働きをしていることを示すものである。
- (2) 「名詞+形容詞/動詞」の複合と名詞から動詞への転換において、名詞の特質構造を利用して新たな LCS や項構造が形成されることを明らかにした。特に転換動詞の分析からは、各名詞について特質構造の4つの役割のうちその物体の特に際立つ特徴を表すものを区別する必要があることを示した。
- (3) 述語名詞としてふるまう「名詞+動詞」にはその語形成の動機づけにおいて少なくとも2種類があることを明らかにした。また、いわゆる関係名詞の中に、そのものへの影響が全体への影響を必ず含意する類のものが区別されるべきであることを示した。これは、特質構造の構成役割において与えられる情報がその名詞が関わる事象の解釈に利用さ

れ得るようなシステムが必要であることも明らかにするものでもある。

- (4) 身体部分名詞が動詞と結合して形成される複雑述語の統語的・意味的性質を説明する際、名詞の特質構造が重要な役割を果たすことを明らかにした。また、身体部分名詞の比喩の意味拡張についての小野(2005)の分析がこの語形成に有効であることも示すことができた。

3. 現在までの達成度

やや遅れている。

名詞や動詞の特質構造が関わる語形成についてはすでにその分析結果をいくつかの成果として発表できており、個別の事象の研究は概ね順調に進んでいる。しかし、形容詞の特質構造については、先行研究が皆無に近いこともあり、ほとんど手付かずである。また、昨年度より国立国語研究所の共同研究プロジェクトにも参加しており、本プロジェクトと関連した分野ではあるが、異なる使命において探求すべき課題を並行して進めているため、当初掲げていたエフォート率を保てない状況である。したがって、本プロジェクトの最大の目的である理論構築に至るには道は遠いように思われる。

4. 今後の研究の推進方策

理論構築に向けてまずは整理しなくてはならない、特質構造と LCS や項構造との関係を明らかにすることを目標とし、これまで提案してきた分析の統合を図る。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

Yumoto, Yoko. Variation in N-V Compound Verbs in Japanese. *Lingua* 120 :2388-2404. 2010. (査読有)

由本 陽子 「身体部分を表す名詞を結合した日本語の[N+V]複合語について」『言語文化共同研究プロジェクト 2009 自然言語への理論的アプローチ』89-99. 2010. (査読無)

由本 陽子 「語彙意味論における特質構造の役割について」『言語文化共同研究プロジェクト 2008 自然言語への理論的アプローチ』19-28. 2009. (査読無)

由本 陽子 「複合動詞における項の具現 統語的複合と語彙的複合の差異」『レキシコンフォーラム』4 巻 1-13. 2008. (査読有)

〔学会発表〕(計3件)

由本 陽子 「日本語の「[N+V]する」複雑述語の形成と項実現について」第25回中日理論言語学研究会 2011年3月27日 関西学院大学大阪梅田キャンパス (招待)

由本 陽子 「複合語の形成メカニズムと意味解釈」国立国語研究所共同研究「日本語レキシコンの文法的・意味的・形態的特性」第1回研究発表会(公開) 2010年3月20日 国立国語研究所(査読無)

由本 陽子・王 蓓淳 「中国語複合動詞「改V」の形成と意味 日本語の「V+かえる」「V+直す」との比較を参考に」日本言語学会第139回大会 2009年11月28日 神戸大学 (査読有)

〔図書〕(計4件)

由本 陽子・影山 太郎 「第7章 名詞を含む複合形容詞」影山太郎(編)『形容詞・副詞の意味と構文』大修館 223-257頁 2009.

由本 陽子 「複雑述語の形成に伴う事象構造の合成と項の実現」沈 力他(編)『漢日理論言語学研究』学苑出版社 89-97頁. 北京 2009.

Yumoto, Yoko. Modularity of Word Formation: Differences between Two Types of Japanese Compound Verbs. Hoshi, Hiroto (ed.) *The Dynamics of the Language Faculty: Perspectives from Linguistics and Cognitive Neuroscience*. くろしお出版 203-230 頁. 2009.

由本 陽子 「複合形容詞形成に見る語形成のモジュール性」由本陽子・岸本秀樹(編)『語彙の意味と文法』(533頁)